

【 後鳥羽上皇伝説 】

後鳥羽上皇は承久3年（1221年）に、時の権力者北条義時を討しようとして失敗し、隠岐に流された。その時どのようなルートを通して隠岐まで配流されたか、いろいろな説がある。「吾妻鏡」や「承久兵乱記」という書物には、京から瀬戸内海を西に下り備前あたりから上陸して日本海方面へ北上したと記されているので、これが通説となっている。しかし、これ以外にも後鳥羽上皇伝説が残っている地域がたくさんあり、これをつなげると、世羅町から吉舎町、庄原市を通して比和町、高野町にぬけるルートが浮かび上がってくる。

吉舎という地名は後鳥羽上皇が吉舎で一夜を明かした時、「吉（よ）き舎（やど）りかな」と言ったことがもとになったとされる。町内の良（うしとら）神社には、その時書かれた後鳥羽上皇のご真筆があるという。高野町の功德寺にも、ご真筆や硯（すずり）が残っているらしい。また、比和町境にある王居峠や島根県に通ずる王貫峠という地名は、「王」すなわち「上皇」が関係している地名だと言われている。地名に関しては他にも庄原市の黒木谷（黒木は天皇の在所を意味する）や三良坂町の皇渡（おおのわたり）など後鳥羽上皇通過説に関するものがある。さらには上皇が残した和歌に、吉舎町の登美志（とみし）山や高野町の部（しとみ）山という名が使われているという点も注目される。このルートから少し外れるが、三次市作木町にも後鳥羽上皇伝説の地が残っている。作木町川毛という所に後鳥羽上皇の墓があるし、同じく大山という所には立派な御陵が残っている。この場合は、一度隠岐まで流された上皇が島を脱出し、再び中国山地を越えて作木までたどり着いたが、そこで崩御したという話になっている。



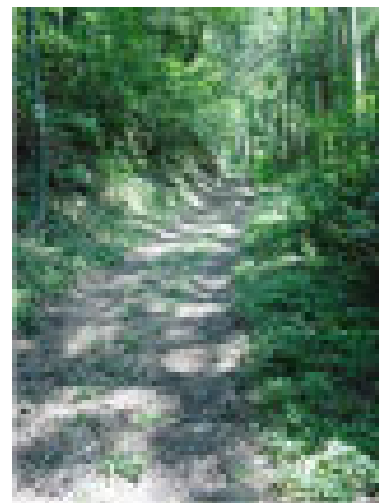
有陵山蓮照寺

この寺には江戸時代の作と思われる、後鳥羽上皇座像がある。山号の有陵山とは御陵の存在を意味している。



作木町大山の御陵

後鳥羽上皇が脱出し作木の大山までたどり着きここで果てたという伝説が残っており、立派な御陵が整備されている。



王居峠と王貫峠

高野町の王貫峠や王居峠はいずれも王という字が使われ、上皇通過伝説が残っている。また上皇が詠んだ和歌の一説に「部山・・・」という地名が出てくるが、これが高野町にある部山をさすというというも根拠とされている。



おおわたりばし

三次市三良坂町仁賀（みらさかちょうにか）にある「おおわたりばし」はかつて「皇の渡り」と書いていた。後鳥羽上皇がこの付近で川を渡ったという伝説がある。



吉舎町の良（うしとら）神社

後鳥羽上皇が沖に流される途中、ここに一夜滞在したと言う。神社には上皇御真筆と言われる古文書が明治初年ころまで残されていたという。